

道徳の時間で活用する ～国際理解、国際貢献～

岩国市立周東中学校 大園 克紀

1 本場面におけるポイント

- どの国の人々も同じ人間として尊重し、世界平和と人類の幸福に貢献しようとする道徳的態度を育成する。
- 正義を重んじ、誰に対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。
- 日本人としての自覚をもってこの国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。

2 授業の実際

1 主題名 海と空～樫野の人々～

2 ねらい

世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って同じ人間を尊重し合おうとする道徳的心情を育む。

3 展開

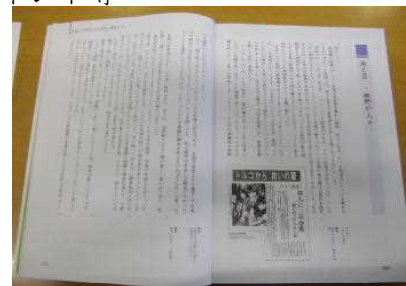
(1) 導入 国際貢献についてのきっかけづくり

教師：「国際貢献って、どんなイメージありますか？」

生徒：◇青年海外協力隊 ◇NPO（非営利団体） ◇ODA（政府開発援助）
◇NGO（非政府組織） ◇ボランティア活動
などの意見が出てきた。

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

資料への興味を高めるため、「樫野崎灯台」「船甲羅」「エルトゥールル号」「慰霊碑」「トルコ記念館」「沖周村長の日記」等の写真を提示して、当時の様子を臨場感にあふれた実話の世界に入っていけるように工夫し、「私たちの道徳」P220からの本文を読んだ。



(2) 展開 長年の疑問を氷解させたものについて考える

教師：「筆者である私を感じた長年の疑問を氷解させたものは何だろう？」

生徒：◇樫野の人の思いやりにあふれた行動
◇困った時に助け合う優しい心
◇樫野の人の心のあたたかさ
◇誰彼の別なく助ける行動
◇国籍に関係なく、一人の人間として尊い
などの意見が、各班から出た。



□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

主発問を一つ絞り込むことによって、生徒が本時のポイントを感じ取り、考えやすいうように配慮することを心がけた。

また、個人でも集団でも、課題をじっくり考える時間を確保した（個人で考える時間3分→班活動で考える時間10分 ※この間の司会者、記録者、ホワイトボードへの記入者、班で出た意見をまとめて発表する生徒と役割分担も決める）。

その後、代表者による班の意見を発表する時間を設定した。

(3) 終末 ワークシートによる本時の活動の振り返り

教師：「今の自分のできること」

生徒：（ワークシートの記述や感想を含めて）

◇ 私には看護師になりたいという将来の夢がある。だけど、私の夢は、それで終わりではない。世界の抱えている深刻な問題に貢献するというのが、私の最終的な夢。世界中をボランティアで回って、世界の役に立つこと、人の役に立つことがしたい。

◇ ただ素直に、人のことを考えて生きたい。何も現地に行き直接支援することだけでなく、日常生活のどんな些細なことでも、自信や誇りをもってそれを積み重ねれば、世界を変える大きな力になるのではないかな。

教師：（この授業を通しての振り返り）

◇ 今回は国際貢献という大きなテーマでドラマチックな話であったが、「困った時はお互い様」で、同じ人間として共感できる部分も多かったと思う。それを、自分自身の身近な生活に繋げてほしいということを生徒に伝えた。

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

道徳に限らず、教科や総合的な学習、日々の生活ノートなどのやりとりで、生徒と会話をするような気持ちで、しっかりと言葉のキャッチボールをするコメントを書く（生徒のがんばりに感謝の気持ちをこめて返事をする）ことに努めた。



3 実践を振り返って



私自身、道徳の授業には三つの楽しさがあると感じている。

- ① 生徒が自らの生き方を真剣に考える楽しさ
- ② 教師の生き方を語る楽しさ
- ③ 生徒から学ぶ楽しさ

生徒と教師は、「お互いに努力し、高め合う仲間」だと考える。この1年の道徳の実践を通して、改めて実感させられ、生徒には心から感謝している。